

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

ナモの寺 検索

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第315号
平成22年1月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp

日出乾坤輝

ひいでてけんこんかがやく



【出典】『禅林類聚』『古尊宿語録』『日出乾坤輝、雲叡山岳青』による。乾坤とは天地の意。日の出の生気に満ちた景色。新しい年を迎える華やいだ心にふさわしい。

益園：小島とよ子

元旦の

「旦」という字は

地平線の「一」から

太陽の「日」が

まさに

顔を出した様という

煩わしきこと

疎ましきことすべては

すでに

過去という地平に消え

新年の朝

空も 大地も

光り輝き

未来という

希望が昇りゆく

世界に平和を

そして

あなたに幸あれ

日出乾坤輝

師走に入って間もなく、京都の
 本山から、広報誌編集委員の招集
 がかり行つてまいりました。い
 つもでしたら新幹線で行くところ
 を、かさばる荷物がありません
 たので、車で行くことにしまし
 た。ただ、少々体力的に不安があ
 りましたので、家内に運転を任
 せ、それならばついでに、金閣寺
 (鹿苑寺) に参拝しようといふこ
 とになりました。

なぜ金閣寺かという点、実は、
 この年になるまで、一度も行った
 ことがなかったからです。我々の
 地域ですと、小学校の修学旅行で
 必ずといっていいほど行っている
 はずですが、ご存じのように、昭
 和二十五年に放火によって全焼し
 ており、五年後には再建はされま
 したが、まだ間もないということ

で、多分、外されたのだと思いま
 す。また、学生時代を京都で過ご
 しながら、どういう訳かこれまで
 縁がなく、今回、念願叶つての参
 拜と相成りました。

行かれた方は当然ご存じとは思
 いますが、方丈の北側に建てられ
 ている書院の庭に、京都三松の一
 つに数えられている「陸舟の松」
 があり、これには、当の金閣より
 も感動を覚えました。因みに、後
 の二つは、大原の宝泉院の五葉松
 と、西山の善峰寺の「遊龍の松」
 だそうです。

なんでも、この五葉松は、舍利
 殿(金閣)を建てた足利義満の盆
 裁から移植されたもので、樹齢
 六百年といえますからたいしたもの
 であります。帆掛け船の形に仕
 立てられ、舳先は、西方浄土の方
 角である西を向いているとのこと

です。

ガイドの方の解説に耳を傾けな
 がら、しっかりと根を張り、完璧
 なまでに刈り込まれたその松の立
 ち姿を見ていましたら、「松樹千
 年翠」という言葉を思い起こしま
 した。床の間の軸に飾られること
 の多い言葉ですので、目にされる
 機会も多いかと思いますが、「春・
 夏・秋それぞれに、花・新緑・紅
 葉と美しさを見せる樹木に、とか
 く目は移ろいやすいが、松は千年
 も変わらぬ緑をたたえている。松
 は、そのように不断・不易の法を
 説いているが、世人は、一向に気
 づこうとしていない」という意味
 になりましようか。

松は、寒風吹きすさぶ季節、冬
 に似合う樹ということがいえま
 す。岩肌を見せる荒れ地にあつて
 も、雪が積もっていても、ときに

はその重みに耐えかね枝折れしても、そのそぶりさえ見せぬ松は頼もしく立派です。百年に一度の大不況といわれている昨今、松樹から学ぶことは多くありそうです。

また、長寿・繁栄を願うということから、松は正月飾りになくてはならないものですが、「松樹千年翠」の墨跡も正月に相応しいものです。ただ、その出典は不明で、おそらく、『続伝灯録』巻三十五の「松柏千年青、不入時人意、牡丹一日紅、滿城公子醉」（松柏の千年常に変わらぬ青は、世の人々には気に入らない。牡丹の一時の艶やかな花に、満都の貴公子達は酔いしれる）から来ているものと思われまます。

もう一つ、正月に相応しい言葉として、表題に掲げました「日出乾坤輝」を紹介させていただきま

す。典拠『古尊宿語録』には「日

出乾坤耀、雲收山岳青」とあり、「日出でて乾坤輝き、雲收まりて山岳青し」と読むことができます。

乾坤というのは易の卦で、「乾」は天・陽などを表し、「坤」は地・陰などを表し、「天地」「陰陽」「上下」「前後」といった意味に使われます。のるかそるかの大勝負に出る意味で使う「乾坤一擲」も、ここでの意味も「天と地」であります。ですから、「太陽が出て、天地は光り輝き、雲も消え失せ山々が青々と見える」ということで、必ずしも元朝の日の出というシチュエーションでなくてもよいわけですが、晴れやかで、胸のすく景色が目に見えるようでありま

ただ、本来この言葉は、仏が智慧の光でもって、無明の闇を照らし、真理をあらわにすることを、比喩的に表現されたものであります。これまで、霽とも雲ともつかぬ煩惱が覆い被さっていたのが、真理会得によって一気に晴れ渡り、澄み切った心持ちになったことを表しています。これは禅の言葉であり、真理会得というと大仰でありますから、普段の生活の中の、疑問や悩みの解消ととらえても良いかと思えます。

さすれば、新しい年を迎えるに当たって、思い煩うことは綺麗さっぱりリセットして、昇りゆく希望に光り輝く元朝の日を拝したものであります。そして、大事なことは、世界が輝いて見えるのは、実は、自分が輝いているのだと気づくことにあります。

単に「乾坤輝」と短くすることもあるようです。

平成二十二年度年回表

| | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ・ 一 周忌 | 平成二十一年 | ・ 二十三回忌 | 昭和六十三年 |
| ・ 三 回忌 | 平成二十年 | ・ 二十七回忌 | 昭和五十九年 |
| ・ 七 回忌 | 平成十六年 | ・ 三十三回忌 | 昭和五十三年 |
| ・ 十三回忌 | 平成十年 | ・ 三十七回忌 | 昭和四十九年 |
| ・ 十七回忌 | 平成六年 | ・ 四十三回忌 | 昭和四十三年 |
| | | ・ 四十七回忌 | 昭和三十九年 |
| | | ・ 五十回忌 | 昭和三十六年 |

◎行火あんか

もちろん「行火」は、その中に火を入れ、蒲団の中に入れてたり、そのまま手足に当てる暖をとる道具のことである。これもまた、禅宗のお寺から一般に広まったもの。精進料理といい暖房用品といい、禅家にはなかなか発明家が多いようだ。

ところでこの行火は、「行火炉」の略。あんかは、唐で行を発音した場合の音。持ち運びできる、とい

う意味になる。すなわち、炬燵と違つてよりハンディに、よりポータブルに進化したものが、この行火なのだ。

『仏教のことば』早わかり事典

雑記



▼謹賀新年

明けましておめでとございませう。旧年中は、多々ご迷惑をお掛けもし、お世話にもなりました。今年も寅年、前住職は八廻り目を

迎え九十六才になります。最近では、床に伏していることが多くなり、吠えるほどの元気はさすがになくなりりましたが、無事過ぎてしております。寺族共々、本年も何卒宜しくお願いいたします。

なお、鑿子と鑿子台きんすだいのご寄付を新たに次の方から賜りました。ありがとうございます。敬称略

◎藤本政和 (二万円)

▼初夢

七福神の乗った宝船の絵に「長き夜の遠の眠りの皆目覚め浪乗り船の音のよき哉」という回文の歌を書いたものを枕の下に入れて、三回読んで眠ると良いとか。

皆さまにとつて、良い年でありませう、祈念いたします。

◆富士よりも大願成就

茄子がよい 沐魚